



2年ぶりに対面開催された第37回 JEA 総会の議事会

「キリストの十字架のもとに集められる」



羽鳥頼和
JCE7 開催地委員長
JECA

2022年9月19日(月)～20日(火)に宣教フォーラム in 岐阜～JCE7 一年前キックオフ大会～が、主の守りのうちに開催されました。会場は、今年 JCE7 が開催される長良川国際会議場でした。毎年行われる宣教フォーラムとともに、JCE7 の一年前大会として行われました。

台風 14 号の通過する中での開催でした。祈りつつ開催する決断、一部プログラムを中止する決断をいたしました。また開催地の奉仕者が主に用いられました。(これらのことは 23 年の本開催に活かしていきたいと思います) 開催には、祈りに応えて下さった主の守りがありました。主に感謝します。

キリストのみことばに聴きたいと思います。「わたしは、…初めてであり、終わりである。」(黙示録 22:13)

日本伝道会議 (JCE) は、教会の主であるキリストが始められたものです。六回の集まりを主が守り支え、用いて下さり、祝福してくださいました。まさに主の働きです。これからさら

に宣教のために整えて、また掲げて下さるのだと思います。主に期待して 23 年 9 月に向けて準備を進めてまいります。

「・・・、散らされている神の子らを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。」(ヨハネ 11:52)

このことばは、イエスがご自分の十字架の死について預言したみことばです。キリストの十字架は、神の子を一つに集めるためであることがわかります。

コロナ禍で、それぞれに、ひとりひとりがという感覚が当たり前になり、皆が集い合わなくても良いと思ってしまっていないでしょうか。私も別々でも大丈夫と思ってしまい、WEB 機材に頼ってしまっている自分に気づかされました。

パンデミックの始まりのころには、「また顔と顔を合わせて会いましょう」が合言葉でした。感染拡大が 2 年目に入る頃、当初の真剣な祈りがなくなってしまうことに気づかされました。

「わたしは彼らのうちにおいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。」(ヨハネ 17:23)

礼拝において最近ではキリストにあって「一つにされる」ことを覚えています。たとえ礼拝をハイブリットで行っていても、「私たち(教会)の献げる礼拝を、場所や時間が違って、一つとしてください」と祈っています。

JCE も、キリストにあって一つとされる御業です。23 年 9 月、主に集められ、そこでともに主のみわざを見ることを期待しています。

目次

巻頭言	1
宣教フォーラム in 岐阜 JCE7 一年前大会報告	2
世界宣教祈禱会のこと	3
流れのほり	4
アジア 2022 に参加して	5
牧師の本棚「ウクライナ侵 攻とロシア正教会」 社会委員会・憲法問題	6
青年委員会・C Link ゆるクリナイトに	7
JEA アップデート 総務局から	8

宣教フォーラム in 岐阜の報告 ～危機を乗り越えさせていただいて～

三浦春壽 宣教委員長
JECA・朝顔教会

「十字架のことは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」 I コリ 1:18



幾つかの危機を乗り越えさせていただき、岐阜県長良川国際会議場で宣教フォーラム in 岐阜～JCE7 1年前キックオフ大会～が2022年9月19日(月)、20日(火)の二日間、無事に行われました。

台風14号の影響を受け、直前まで開催をZoomだけにするのか対面で行うのか、最善の判断のために祈られました。この危機に

際して、当初予定のプログラムの変更をし、対面開催の決断をしました。結果的に守られ、JCE7、1年前キックオフ大会として開催出来たことは祈りを聞かれる主の憐みだと思い、心から感謝しました。また、プレ東海フェスティバルのオープニングでは岐阜在住のクリスチャンアーティストの方々が、熱気に溢れる神様への賛美を捧げてくださり、地元の方々のJCE7に向けての熱い思いが表されていたかに思いました。夜の集会は、台風の影響を考慮し、中止することが決定されましたが、適切な判断だと思いました。このように、対面で開催されたことに主の憐れみと恵みを覚え、危機を乗り越えさせていただいた第一の点かと思えます。

内山勝先生による「これらかの宣教を考える『東海のビジョンS&L』(Salt & Light: 地の塩・世の光)」ネットワークプロジェクトの発表は、「神の国のインフルエンサーとなる」との題で、諸教会及びクリスチャンに対する持続的な宣教戦略として良い



内山師による発題講演



台風の中、会場に集まった参加者

チャレンジを与えてくれました。これは、2016年の第六回日本伝道会議の時にクリストファー・J・H・ライト師によって紹介された「神の国の宣教」に啓発されたことの積み上げと思われ、素晴らしい提言に感謝しました。また、20日に行われた「これからの宣教協力を考える」及びJCE6からの各プロジェクト発表では、担当された方々の尊い、大きな犠牲による成果が報告され、多くの質疑応答による活発な論議が交わされました。また、日本に滞在する外国人を通しての異文化宣教は、



在日外国語教会との協力の発題

日本の教会が取り組むべき課題を示唆し、チャレンジされたことは、閉塞感に悩むこの時代の危機を乗り越えさせていただこうとしている第二のポイントかと思いました。

このフォーラムの最後に、JCE7の『JCE7 おわりからはじまる私たちの祈り』宣言文一次案』が配布されたことは、諸教会やキリスト者各人への積極的な参加への呼びかけになったとも思えます。

新型コロナウイルス感染症に対しても、デジタルによる新たな宣教戦略へと導かれ、今日の危機を乗り越えさせていただく第三の点かと考えます。困難な宣教の戦いはいつもありますが、今回の宣教フォーラムでは、参加された方々に新たな示唆を与え、壁を乗り越えていく主の摂理を感じさせられました。

キリストの十字架と復活の福音は誤りのない神のみことばを預かるキリストの教会を通して着実に進められていることを味わい、2023年のJCE7に向って行くことを期待いたします。

ぐるーぱる・こんさーん（世界宣教祈禱会）のこと

松崎ひかり
異文化宣教ネットワーク部門
ぐるーぱる・こんさーん世話人

2008年、主が世界宣教の祈りに導かれた人々を繋げてくださり、アツという間に首都圏に3つの宣教祈禱会が生まれました。現在ぐるーぱる・こんさーん（以下GC）の名で行われている世界宣教祈禱会は、その一つです。

当時浦和にあったアンテオケ宣教会の事務局の働きに就いて1年程の筆者は、その地に教派や団体に限定されない世界宣教の祈りの場があるか気がかりでしたが、不案内な地で見当がつかずにいました。その年の半ばに行った欧州で、思いがけずシュトゥットガルト日本語教会のリトリートの参加に導かれました。そのことから、旅行のために奉仕をお断りした東京のある家庭集会の世話人Y姉と、スイスからリトリートへ参加したC姉それぞれから、シュトゥットガルトで主を信じて浦和へ帰国したN姉を紹介されました。

呼びかけに応じて

N姉は、その年8月の欧州日本人キリスト者の集いで、帰国者ミニストリーのリーダーからの「世界宣教の祈りを始めませんか」との呼びかけに心で応答し、その集いに参加していた別の働きのリーダーのお世話で都心のある事務所を借りました。そこへ前述のY姉や私、千葉在住の帰国者のK姉、宣教師を派遣していた教会の牧師夫人など、8人が集まって祈り始めました。9月、10月とその事務所を借りましたが、祈り会の直後に事務所の方々の会議があるため、少しの延長も申し訳なく、以後東京のY姉、千葉のC姉、浦和のN姉と筆者を世話人に、3か所に分かれて祈り会を続けることになりました。

場所と名前が与えられて

さて、筆者が浦和のどこで？声をかけるべき祈り手は？と考えていた時、同年4月に浦和へ赴任された旧知のY牧師のことを思い出し、場所の相談をすると、Y師の牧する教会が礼拝のために借りている、市のコミュニティーセンターを紹介されました。浦和駅の真向かいのビルはわかりやすく、アクセス良好。タイミングよく利用を申し込み、抽選結果次第という課題は、市民のN姉が引き受けて下さり、予約に使うための会の名前も、理念を現す英語のひらがな表記に即決。かくして、どの部屋を借りても500円でおつりがくるという、驚くべき場所が与えられたのです。

教派・団体・特定の働きでなく、世界宣教そのものがテーマの草の根の祈り会として始めるにあたり、もう一つ必要と感じたのは、既存の教会・働きの方々にもご理解いただけるように、その目的と性格を明文化することでした。これも主の助けで、「日本を含む世界のあらゆる人々の中で主のみわざが前進し、イエス・キリストを信じて、霊とまことをもって礼拝する人々が増えるように、超教派・超団体の有志による任意活動として、継続可能な方法で定期的に集まり、共にとりなしの祈りをささげる」という文がずっと与えられました。

お誘いする方々も、浦和区と近隣、JR沿線在住の方々の名

前が次々と浮かび、11月の初回には、牧師、宣教師、宣教主婦など、7人が集まり、短い奨励の後、それぞれがもち寄った宣教の祈禱課題を次々祈ってゆくスタイルで、「世界宣教祈禱会 in 浦和」（通称GC）が始まりました。

恵みの数々

2008年11月の開始以来、12月を除く毎月第4火曜日の10amに浦和のコミュニティーセンター（以下コミセン）に集まりました。部屋が予約できない時は、レギュラー参加者だったG牧師の教会を借用して、日本と世界各国の事情や主のお働き、現地の働き人や外から遣わされている宣教師を覚えての祈りを続けてきました。参加者は2人だけの時も20人の時もありましたが、平均5～6名。火曜の午前はデビュテーション中の宣教師が来やすいため、様々な任地からの多様な働き人を迎えて直接お話を聞き、幅広く祈り、それを通して祈り手が成長し、またGCでの祈りをそれぞれの教会へもち帰ることもできるとというのが、この宣教祈禱会の恵みの一つです。

最初の10年でこの祈り会に導かれて来た祈り手は延べ700人を超え、招かれた宣教師も70名近くに上りました。参加者が退出時に自由に捧げるワンコイン献金は、安価な会場費には余りあり、GCから宣教師への献金にもなりました。

2019年11月、11年目に入るにあたり、N姉が、あるドイツ人宣教師が登録しているドイツ中の祈り手・祈禱会へ、最新の祈禱課題を毎日メール配信していることに触発されました。そして「GC祈りのネットワーク」として、メールとLINEグループで毎週世界宣教の課題を配信するという、新たなチャレンジを始めました。これには現在、北米、欧州の在住者も含め、45人が登録しています。

コロナ禍でコミセンが休館した2020年3月から、祈禱会はオンラインに切り替え、以後Zoomで続けています。これもまた恵みで、遠方の祈り手や一時帰国中の宣教師が参加しやすくなっただけでなく、時間が合えば宣教師の任地からの参加も可能となり、特に欧州の働き人がゲストの時は、祈り会を日本時間の午後にし、欧州在住の日本人キリスト者と共に祈ることもしています。

今後へ向けて

スタートの経緯に記したように、主は草の根レベルで宣教のための祈りが積まれるようにと、ずっと前から布石を打っておられ、御心の時に配剤を以てGC（そして千葉のフィリア会、Y姉宅でのコイノニアの祈り会）という形にして下さいました。どんな働きも、始まりにはビジョンや信仰、やる気の勢いで前進して行けるものですが、大切なのは始めることよりも継続すること、そしてもしも主が「そこまで」と言われたなら、潔く辞めて次の指示を仰ぐことだと思います。

GCの世話人には、熱心な祈り手がある時期加わって下さいましたが、諸事情で辞退され、基本的にスタート時からの2名

(Page 8に続く)

第 11 回かたりばオンラインに参加して

第 11 回「かたりば」を、2022 年 10 月 13 日午後 1 時半より、2 時間のプログラムで開催いたしました。「かたりば」は Zoom を用いてのオンライン開催ですので、全国各地からご参加いただいています。今回は 60 名ほどの方と一緒に、豊かな学びと交わりの時間をもちました。

今回は、講師として日本キリスト教婦人矯風会 女性の家 HELP の坂間治子さんをお招きし、「女性の家 HELP の働きと女性たち」と題してお話しいただきました。坂間さんは、主に DV や人身売買などにより、今晚帰家のない女性やその子供を一時的に保護し、安心で安全な環境を提供する活動をしておられます。このような、行政や医療などの長期支援に入る前の段階、つまり緊急的なシェルターとしての働きにおいては、目の前にいる女性のその場の必要に臨機応変に対応することや、行き届いた細かな配慮で接することが必要不可欠です。同時に、目の前の人を具体的に助けつつも、ただ場当たりのならず、根本的な問題である個人の主体性や選択、自己評価の見直しにおいても支援なさることを伺い、このような働きにクリスチャン女性が携わることの意義深さや尊さをおぼえました。宣教に生きる女性として、キリストの

愛や香りを放ちながら活躍しておられる姿に、励ましとチャレンジをいただきました。

後半の時間では、小さなグループに分かれて感想を分かち合いました。オンライン上で教会や地域を超えて活発な意見交換がなされた、祝福のひとつでした。



第 10 回「かたりば」記念講演会のお知らせ

寺村真弓 女性委員
イムマヌエル綜合伝道団・板橋キリスト教会



2019 年 10 月 から 始 ま っ た 「かたりば」も、対面での集まりからコロナ禍によるオンライン集会へと変化しつつ継続され、12 回を数えることとなりました。これまで「宣教に生きる女性」というテーマに基づき、主から示されたビジョンのもと様々な分野で活躍しておられるクリスチャン女性のお話を伺ってきました。講師の方々の活動や生き方に表される主の恵みに触れ、学びと励ましをい

ただく場として楽しみにご参加くださる方々、テーマに興味を持ち新しく加わってくださる方々が与えられ、信徒・教職という立場や住んでいる場所、性別などを越えて交流の輪が広がっています。

今回は 2023 年 1 月 31 日 (火) 午後 1 時半より、高見澤 栄子さんを講師にお迎えし、「アガペの愛、モンゴルの草原に！」と題して「モンゴル・キッズの家」の活動について伺います。モンゴルでホームレスの子どもたちは「マンホール・キッズ」と呼ばれ、零下 30℃にもなる真冬の寒さをマンホールの中の温水パイプで暖をとりつつ過ごすという、厳しい生活を強いられている心痛む現実があります。安全に暖かくすごせる家や将来の自立を目指した支援、そして何よりも主の愛を届けるため活動されている高見澤さんの宣教報告に共に耳を傾け、主からのチャレンジをいただくことが出来たら幸いです。(当日の参加が難しい方には、講演部分のアーカイブ動画をご覧ください) 皆さまのご参加をお待ちしています。

アジア 2022 大会に参加して

岩上敬人 総主事



2022年10月17日(月)～21日(金)にタイ・バンコク郊外でアジア2022大会が開催されました。これは、アジア福音同盟(AEA)、アジア・ローザンヌ委員会(ALC)、アジア神学協議会(ATA)の共催で行われ、アジア全体で宣教、神学、教会協力について話し合い、交わりを深める目的で行われました。

元々はアジア2020大会として行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大で延期され、ついに対面開催が実現しました。JEA総主事はAEAを代表して実行委員の一人として準備に携わってきました。2年の延期の後、対面開催が許され、感無量の思いでした。JEA及びAEA、ATA日本支部、日本ローザンヌ委員会などの関係者約30名が日本から参加しました。全体の参加者としてはアジア諸国、欧米諸国約40か国から450名が集まりました。



日本からの参加者

5日間のテーマは「教会と宣教の再考:こんにちの神のアジェンダとは」でした。大会では、東アジアから西アジアにまでの多様なアジアの国々のクリスチャンが各テーブルにグループとなって聖書講解と主題講演に耳を傾け、ディスカッションを行いました。主題講演は①アジア都市圏でメガチャーチを目指すべきか、②若い世代と多世代の教会について、③教会と国家について、④迫害下、苦難の中の教会、⑤全世代育成について、⑥アジア文化における福音の浸透、⑦超自然的なものの復権についてでした。④の主題講演は、ATAJの西岡義行先生が担当され、全体の礼拝の責任はローザンヌ委員会の高見澤栄子先生

が担われ、それぞれご奉仕くださいました。

5日にわたって同じテーブルに座り、それぞれのグループで交わりを深め、お互いの国の教会の状況を分ち合い、共に祈り合う時間をもちました。またワークショップでは、リーダーシップ、アジアにおける神学、神学教育、宣教、全世代育成、難民・移民、ソーシャルディア・AI、教会増殖、信教の自由のトピックについて分科会をもちました。また広大なアジア大陸の中で、各アジア地域がどのように教会協力、宣教協力を構築することができるのか、各地域の連携についても話し合う機会をもちました。



集会の風景

イスラム圏、ヒンズー圏、仏教圏が広がる多様で、ユニークな人種、文化をもつ国々のクリスチャンの方々との交わりを通して、あらためて日本の宣教を問い直す機会を与えられました。国内からの視点で宣教を見ることも大切ですが、より広いアジアの視点から宣教を考えることにより、多くの面で道が開けて見えるように感じました。日本の教会の現状は、成長よりむしろ現状維持さえ危うい中で、もがいているように感じる場合があります。アジアに目を向けると、私たちは孤立しておらず、もっと豊かなキリストの交わりの中で、宣教のわざに取り組むことができるように思いました。その意味では、大きな希望をアジアの兄妹姉妹との交わりを通して見る事が許されました。特にイスラム圏やヒンズー圏で迫害下の中、信仰を命がけで守っている教会と兄妹姉妹の証しを通して、私たちの信仰を励まし、どのような困難にもキリストの力によって、取り組むことができることを教えられました。



ワークショップのひと時

牧師の本棚

『ウクライナ侵攻とロシア正教会： この攻防は宗教対立でもある』

青木義紀 神学委員
日本同盟基督教団・和泉福音教会

(角茂樹、KAWADE 夢新書、2022年)

2022年2月24日、ロシアがウクライナに侵攻を開始し、世界に衝撃を与えました。これに伴い、平和を希求するキリスト教諸団体からは、この戦争が速やかに終わりを迎えることを願う声が続々と上がりました。ところが、モスクワ総主教庁キリル総主教は、ロシアのウクライナ侵攻を擁護する発言をくり返し、そのことでさらに困惑した人も多いのではないかと思います。かくいう私もその一人です。この一件を通して、改めて自らのロシア正教をはじめとする東方正教会の理解の浅さを痛感させられました。

私事で恐縮ですが、筆者はキリスト教史に関心を寄せていることもあり、ある程度、東方教会の歴史・教理・典礼は理解しているつもりでした。しかし近現代のロシアをめぐる政治と宗教の関係については門外漢で、この度のウクライナ侵攻を受けて、遅ればせながら学び始めているような始末です。そのような中で手に取った本書が、初心者にも丁寧にわかりやすくロシア正教とその歴史、そしてこの度のウクライナ侵攻の背景を解説してくれています。

著者は、2014～19年まで駐ウクライナ全権大使として現地で生活し、当時の大統領や首相、政財界の要人やロシア正教会の指導者たちと直接会って、言葉を交わした経験をもっています。本書の中にも、その時の写真が複数掲載されています。

著者自身が信仰者かどうかはわかりませんが、宗教事情や教会の歴史にも詳しく、ロシアの抱える政治と宗教の関わりを歴史に沿って詳しく解説してくれています。

今回、本書を読んで改めて教えられたのは、この戦争の根は深いということです。単なる政治や経済の問題だけでは割り切れない、歴史や宗教、敏感な国際関係の力学が働き、それらが複雑に絡み合っています。しかしだからと言って、侵攻や戦争が正当化されるわけではありません。複雑な歴史や国民感情、宗教的・政治的力学を理解した上で、速やかな解決と平和を願うばかりです。そして何より、キリストの福音に誠実に生きるとはどういうことかを、個人の霊性の問題だけでなく、自らの生きる国家や世界に対する責任としても考えさせられました。それは、福音宣教に励みながら、私たち信仰者や教会がどのような世界を目指すのかが問われているということだと思います。旧統一教会の問題により、信仰の立場から国家観や世界観を提示することは、なお一層の警戒を煽ることにもなりますが、終わりの日の完成を見据えることの大切さを思わされました。



憲法問題への取り組み

小岩井 信 社会委員長
日本同盟基督教団・子母口キリスト教会

社会委員会では現在、22年12月9日に開催予定の第34回信教の自由セミナーの準備を進めています。主題は「憲法改正、何が問題？—教会が教会でなくなるとき—」で、講演者は星出卓也牧師（日本長老教会西武柳沢キリスト教会・JEA社会委員会担当理事）です。

今回のセミナーの題目にもあるように、現在社会委員会が喫緊の課題として取り組んでいるのが「憲法改正」問題です。もとより当委員会が信教の自由に関わる課題として取り組んで来た多くの事柄の中に「憲法問題」は既にありました。そんな中で2016年に冊子「その時に備えて…憲法問題 Q&A」を発行しました。そして現在「その時に備えて Part3…憲法問題 Q&A」を2023年2月に発行することを目指しています。なお、「その時に備えて」シリーズは Part2 として「天皇代替わり Q&A」が2018年に発行されています。天皇問題も私た

ちが向き合い考え続けるべき大事な問題です。天皇代替わりの「その時」はまた必ず来ます。象徴天皇制も憲法に（しかも第一章として）記されている大事な「憲法問題」です。「天皇問題 Q&A」在庫は十分ありますのでこれも是非お求めください。

話を「憲法問題」に戻します。前回の「憲法問題 Q&A」は、「(JEA が、教会が) 憲法を問う意味」から始めて、聖書の価値観とも関連の深い民主主義、立憲主義、平和主義を軸に私たちキリスト者の課題として憲法を考えるというものでした。「戦時下の歩みを省みると共に、戦後の新たな教会のあり方を模索する中で…JEA は設立され、活動を続けてき」た故に「この時代にこの国にあって神のみこころに適うあり方を模索し、神のみこころを選び取るためにも、憲法に関心をもつことは、私たちにとって大切な課題なのです」と確認しました。そして「教会が憲法を問う意味は、憲法問題そのものですが、それと共に

(Page 7に続く)

C Link ゆるクリナイト が始まります！

吉澤慎也 青年委員
KGK 総主事

青年委員会では、社会人クリスチャン青年の交わりを促進するための企画「C Link」を立ち上げました。頭文字のCには、Christ、Church、Communityなどの意味が込められており、それらに青年たちが「つながる（Link）」ことを願ってのネーミングです。この取り組みを始めるに至った経緯は、2018年11月に開催されたNSD II（第2回日本青年伝道会議）にまで遡ります。NSD IIの大会3日目にもたれた「社会人プログラム」は、大変好評のうちに終わり、そこに集まった青年たちから「このような集まりをまたやりたい」「ぜひやってほしい」という強い声が挙がりました。また、日本には社会人クリスチャン青年を対象としたミニストリーや宣教団体があまりないことから、諸教会の青年宣教をサポートすべく、JEA 青年委員会がそれに取り組むことにしました。そしてNSD IIから約7カ月後の2019年7月5日に「NSD ナイト@渋谷」を開催したところ、約60人の社会人クリスチャン青年の参加がありました。彼らの多くが、同年代のクリスチャンとの交わりを求めており、そのような機会があまりないことを残念に感じていました。そこで青年委員会は、このような集いを継続して開催していこうと考えました。

ところがその後、みなさんもよくご存知のように、新型コロナウイルス感染拡大のため、キリスト教界においては対面での集いがほとんどできなくなっていきます。2020年7月に予定されていたNSD ナイトの第二弾も結局開催を見送りました。その後、オンラインによる同様の集いの開催も検討しましたが、当時は各教団教派でオンラインの集いがたくさん

もたれていたこともあり、必ずしも今、青年委員会がやる必要はないのではないかという判断がありました。ようやく昨今、感謝なことに対面集会の実施を現実的に考えられるようになってきました。しかしかつてのNSDから期間が空いてしまったこともあり、コンセプトはそのまま、名称を新たに「C Link」とし、引き続き青年宣教とそのサポートに取り組んでいこうと考えた次第です。

その第一弾「ゆるくりナイト@渋谷」を2月17日（金）の19:30より渋谷のhi-ba.センターで開催します。メッセージに小川真先生（日本同盟基督教団・国立キリスト教会）、音楽ゲストにThird Place Worshipを迎えます。このような交わりを必要としている社会人クリスチャン青年が多く集められ、この企画が用いられるよう、ぜひお祈りください。



(Page 6 から続く)

日本の教会のあり方や福音理解を問うことにもつながります。それは、戦争責任告白の結実でもあるのです」と私たちが取り組むべき課題が提示されました。

今回発行間近の「憲法問題 Q&A」は、前回同様の信仰的教会的問題意識に基づきつつ、「聖書的な価値観に基づきながらも、一般的な言葉で憲法の諸問題について考え」るものです。世界的なコロナ禍、ウクライナ戦争等の渦中において、今は6年前よりも更に一層「憲法改正」の話題、問題が「一般的」にも大きくなっていると思います。そんな中で考えるべき諸問題として「自民党の改憲四項目」、特に「九条への自衛隊の明記」と「緊急事態条項」に多くの頁を割き、最後に「憲法改正」自体について、「押し付け憲法と自主憲法について」考えるもの

となっています。

「その時」は迫っている、いや既に来ていると思います。「憲法問題」についても是非神の御心を求め、御心に従うべく、共に考え、学びたいと願います。

2016年に発行した『憲法問題 Q&A』さらにアップデートした形で新たなブックレットを刊します。ご期待ください。





第37回 JEA 総会の感謝

2022年6月6日(月)～8日(水)に掛川市のつま恋リゾートを会場に第37回 JEA 総会が開催されました。2020年から始まった新型コロナウイルスの世界的感染により、35回総会は文書開催、36回総会はオンライン開催となりましたが、今回実に2年ぶりに対面開催となりました。

代議員、オブザーバー、奉仕者を含め117名が一堂に会して、いつもより間隔を広くとり、感染症対策を徹底しながらの開催となりました。集まった代議員の方々久しぶりの再会を喜び、交わりを深めることが許されました。

1年間の事業報告、決算報告、新年度の事業計画、予算を承認するとともに2023年9月に開催される第7回日本伝道会議(JCE7)を前に宣言文について、また、今後の日本伝道会議のあり方について意見交換を行いました。ポストコロナへと向かう日本の教会の現状と宣教協力について意義深いひと時となりました。2023年度の第38回総会は理事及び理事長選挙が行われず。ぜひお祈りください。



第4回ローザンヌ世界宣教大会に向けて

1月16日、ローザンヌ運動総裁のマイケル・オー師が JEA 事務所を訪問されました。2024年に向けて準備が進められている中、日本に立ち寄ってくださいました。JEA 理事長の石田師、総主事、また日本ローザンヌ委員会の倉沢師、同主事の立石姉も来てくださって、幸いな交わりとローザンヌ運動や WEA の近況報告や分かち合いのひと時をもちました。

2024年にローザンヌ運動は50周年を迎え、それに合わせて、同年9月に韓国ソウルで世界宣教会議を開催する予定です。日本では本年、日本伝道会議が開催されますが、さらにローザンヌ世界宣教会議へとつながり、参加して主の大宣教命令を果たすために協同していきたいと願っています。



左からチャン氏、オー氏、石田氏、立石氏、倉沢氏

(Page 3 から続く)

が、現在まで月例の祈禱会と毎週の祈禱課題配信の継続に必要なことを担っています。今後も前述の「目的と性格」にあるような理念と、「日本を含む世界」という視点で、主の宣教とそれに参与する人々にフォーカスしたとりなしを続けて

いくのが御心なら、新たに世話人に加わり、いずれ引き継いでくださる方を、主が起こして下さいますように。

JEA 総務局から

- ◆ 1月に本号の発行を予定していましたが、諸事情で一月遅れての発行となりました。関係者の皆さまにお詫びいたします。
- ◆ 今年9月の第7回日本伝道会議(JCE7)に向けて、地区大会や具体的な諸準備が進められています。JEA 総務局も JCE7 に向けて、協力しています。
- ◆ 新型コロナウイルス感染対策の出口に差し掛かり、ポストコロナの世界が開けつつあります。この3年でキリスト教会も大きな変化を余儀なくされました。ますます宣教協力の重要性が増していると感じています。JEA が立てられた使命を果たせるようお祈りください。



日本福音同盟

心をつなげて福音の信仰のために力を合わせて戦い(ピリピ 1:27)

JEA ニュース60号 発行・日本福音同盟(JEA)
発行者：石田敏則 編集者：岩上敬人
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC 内
TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933
email: admin@jeanet.org
郵便振替: 00150-8-68442 (口座名義: JEA)